

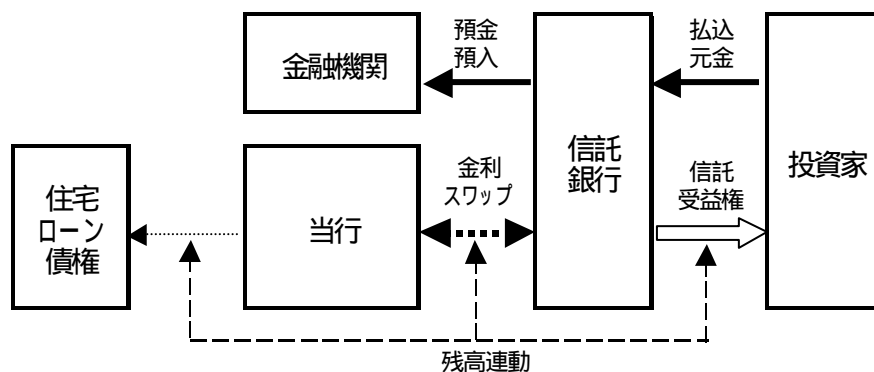
平成18年4月19日

金利リスク移転を目的とした住宅ローン債権証券化の実施について

福岡銀行（頭取 谷 正明）は、長期固定金利住宅ローンの金利リスク移転を目的として、平成18年4月中に住宅ローン債権の証券化を実施し、機関投資家を対象に信託受益権（約170億円）を販売いたします。

当行は、個人営業戦略の柱として住宅ローンを積極的に推進しております。その中で、長期固定金利住宅ローンに対する適切な金利リスク対策として、今回、住宅ローン債権の証券化を実施することといたしました。本件は、従来の証券化スキーム（住宅ローン債権譲渡型）とは異なり、住宅ローン債権残高に連動する金利スワップ取引を活用したスキームで、国内では初めての取組みとなります。

○証券化スキームの概要



本証券化スキームには、以下のような特色があります。

- ・金利スワップ取引を活用することで当行の保有する長期固定金利住宅ローン資産が実質的に変動金利ベースの資産に変換され、かつ住宅ローン資産残高と金利スワップ残高が連動するため、完全な金利リスク移転が可能となります。
- ・従来の証券化スキーム（住宅ローン債権譲渡型）と異なり、住宅ローン債権を譲渡（売却）しないため、証券化に伴う譲渡損益は発生いたしません。

なお、本件信託受益権は、米国格付機関であるムーディーズ社及び株式会社格付投資情報センターよりそれぞれA a a、A A A（トリプルA）の予備格付を取得しております。

以 上